

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ロコアテープ	劇	市販直後調査 平成 28 年 1 月～平成 28 年 7 月
(英名)	LOQOA tape		
(規格・含有量)	1 枚 10cm×14cm(膏体 1.73g/140cm ²)中にエスフルルビプロフェン 40mg、日局 ハッカ油 36.2mg を含有		
(一般名)	エスフルルビプロフェン、ハッカ油(日局)		
(メーカー名)	大正富山株式会社		
【薬価収載日】	2015 年 11 月		
【薬価】	1 枚:45.9 円		
【薬効コード】	872649		
【薬効分類名】	経皮吸収型鎮痛消炎剤		
効能・効果	変形性関節症における鎮痛・消炎		
用法・用量	1日1回、患部に貼付する。同時に2枚を超えて貼付しないこと。		
禁忌	1. 消化性潰瘍のある患者(ただし、「慎重投与」の項参照)[プロスタグランジン合成阻害作用による胃粘膜防御能の低下により、消化性潰瘍を悪化させるおそれがある。] 2. 重篤な血液の異常のある患者[血液障害があらわれ、血液の異常を更に悪化させるおそれがある。] 3. 重篤な肝障害のある患者[肝機能異常があらわれ、肝障害を更に悪化させるおそれがある。] 4. 重篤な腎障害のある患者[プロスタグランジン合成阻害作用による腎血流量の低下等により、腎障害を更に悪化させるおそれがある。] 5. 重篤な心機能不全のある患者[プロスタグランジン合成阻害作用による水・ナトリウム貯留が起こり、心機能不全が更に悪化するおそれがある。] 6. 重篤な高血圧症のある患者[プロスタグランジン合成阻害作用による水・ナトリウム貯留が起こり、血圧を更に上昇させるおそれがある。] 7. 本剤の成分又はフルルビプロフェンに対し過敏症の既往歴のある患者 8. アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[喘息発作を誘発するおそれがある。] 9. ノキサシン水和物、ロメフロキサシン、ノルフロキサシン、プルリフロキサシンを投与中の患者(「相互作用」の項参照) 10. 妊娠後期の女性(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)		
相互作用	本剤作用増強 CYP2C9 阻害作用を有する薬剤:フルコナゾール 等 他剤作用増強 エノキサシン水和物、ロメフロキサシン[ロメバクト][バレオン]、ノルフロキサシン[バクシダール]、プルリフロキサシン[スオード]、ニューキノロン系抗菌剤(ただし、エノキサシン水和物、ロメフロキサシン、ノルフロキサシン、プルリフロキサシンは併用禁忌):オフロキサシン 等、クマリン系抗凝血剤:ワルファリン、メトトレキサート、リチウム製剤:炭酸リチウム 他剤作用減弱 チアジド系利尿薬:ヒドロクロロチアジド 等、ループ利尿薬:フロセミド 等 その他 副腎皮質ホルモン剤:メチルプレドニゾロン 等		
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、急性腎不全、ネフローゼ症候群、胃腸出血、再生不良性貧血、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)、中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis : TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、剥脱性皮膚炎、意識障害、意識喪失を伴う痙攣 その他 皮膚炎、紅斑、そう痒感、湿疹、発疹、血中尿素増加 等		

削除医薬品通知

●3月18日より

アクディーム錠 30mg	3/18 削除
アクディームカプセル 90mg	3/18 削除
エンピナーズ・P カプセル 9000	3/18 削除

●4月1日より

リンラキサー錠 125mg	4/1 削除
---------------	--------

削除院内製剤通知

●4月1日より

G液	4/1 削除
アロプリノール含嗽液	4/1 削除
飽和食塩液	4/1 削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
● <u>4月1日より</u> フルコナゾールカプセル 100mg 「サンド」	ジフルカンカプセル 100mg

医薬品規格変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
● <u>4月1日より</u> ノバクト M 静注用 1000 単位	ノバクト M 静注用 800 単位

適応追加通知

<p>サインバルタカプセル 20mg 市販直後調査 対象:慢性腰痛症に伴う疼痛 (2016年3月~2016年9月)</p>	<p>【効能・効果】 ○うつ病・うつ状態 ○下記疾患に伴う疼痛 糖尿病性神経障害 線維筋痛症 慢性腰痛症</p> <p>【用法・用量】</p> <p>1. うつ病・うつ状態、糖尿病性神経障害に伴う疼痛 通常、成人には1日1回朝食後、デュロキセチンとして40mgを経口投与する。投与は1日20mgより開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量として20mgずつ増量する。なお、効果不十分な場合には、1日60mgまで増量することができる。</p> <p>2. 線維筋痛症に伴う疼痛、慢性腰痛症に伴う疼痛 通常、成人には1日1回朝食後、デュロキセチンとして60mgを経口投与する。投与は1日20mgより開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量として20mgずつ増量する。</p>
<p>プロイメンド点滴静注用 150mg</p>	<p>【効能・効果】 抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)(遅発期を含む)</p> <p>【用法・用量】</p> <p>・成人及び12歳以上の小児 他の制吐剤との併用において、通常、成人及び12歳以上の小児にはホスアプレピタントとして150mgを抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回、点滴静注する。</p> <p>・生後6か月以上の乳幼児及び12歳未満の小児 他の制吐剤との併用において、通常、生後6か月以上の乳幼児及び12歳未満の小児にはホスアプレピタントとして3.0mg/kgを抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回、点滴静注する。ただし、ホスアプレピタントとして150mgを超えないこと。</p>
<p>オキサリプラチン点滴静注液 50mg オキサリプラチン点滴静注液 100mg</p>	<p>【効能・効果】 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 結腸癌における術後補助化学療法 治癒切除不能な膵癌 胃癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌及び結腸癌における術後補助化学療法にはA法又はB法を、治癒切除不能な膵癌にはA法を、胃癌にはB法を使用する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <p>A法: 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはオキサリプラチンとして85mg/m²(体表面積)を1日1回静脈内に2時間で点滴投与し、少なくとも13日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。</p> <p>B法: 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはオキサリプラチンとして130mg/m²(体表面積)を1日1回静脈内に2時間で点滴投与し、少なくとも20日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。</p>
<p>エビリファイ持続性水懸筋注 400mg シリンジ</p>	<p>【効能・効果】 統合失調症</p> <p>【用法・用量】</p> <p>通常、成人にはアリピプラゾールとして1回400mgを4週に1回臀部筋肉内又は三角筋内に投与する。なお、症状、忍容性に応じて1回量300mgに減量すること。</p>